

# 使ってなっとく！「はばたく群馬の指導プラン」(道徳)編

今回は、「はばたく群馬の指導プラン」を活用して、道徳の時間の発問を具体化した例を紹介します。



(道徳教育推進教師)

発問を構成する際には、どのようなことがポイントとなるでしょうか？

中心発問等を軸として一体となった発問構成をすることがポイントです。  
「はばたく群馬の指導プラン」第Ⅱ章(道徳)を見ながら一緒に考えてみましょう。



(授業者)

小学校2年 主題名「みんなのために」4-(2)  
資料名「みんなの ニュース がかり」(『小学校道徳 読み物資料集』文部科学省)  
ねらい 働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする心情を育てる。

ここ見て なっとく！

＜発問構成＞の検討には、「はばたく群馬の指導プラン」のP120・121「指導の基本」が使える！

\*一部表記の仕方を変えてあります。

中心発問はどのように考えていますか？

「みんなのニュースがかり」と言われた場面で、「けいすけくんは、どうすることが大切だと思ったでしょう？」と聞きたいと思うのですが。

(手順)

中心発問

P120【中心発問】(例)を見てみましょう。3つの例が示されています。先生の発問は判断力に関する考えを問うものに近いようですね。本時のねらいから考えると、みんなのために働くことのよさを感じている心情を問えるとよいですね。

なるほど。では「どんな気持ちだったでしょう？」と聞きたいと思います。

その他の発問

ねらいに関わる考えが引き出せそうですね。他の発問はどうしますか？  
「指導例」では、道徳的価値についてより深く理解させるために、①価値の大切さを理解させる発問、②大切ではあるが実現は難しいことに気付かせる発問を事前にし、中心発問につなげていますね。

「このニュースは、けいすけくんがかいたの。」  
「けいすけくんは、きょうしつにはいると、ひろしくんがきました。」  
「みんなのしょうかいをかいたんだ。どうかなあ。」  
「と、とくいそうにいました。」  
「けいすけくんは、ニュースがかり。」  
「きょうが、ぼくがかいたニュースを、かえりにもらったのです。」  
「ぼくがはいつているのは、がっこうのサッカーチームじゃないよ。」  
「わたしのピアノのほうきょうかにも、ちやうびじゃないわ。」  
「ええ、でも、そうきいたとおもったけど。」  
「けいすけくん、これ、ちゃんとしらべたの。」  
「ひろしくんにいわれたけいすけくんは、」  
「いや、あのそのごめんささい。」  
「だって、あわててニュースをはがしました。」  
「やすみじかんです。けいすけくんは、しょんぼりとしぶんがかいたニュースをながめています。」  
「が、ぼくがかいたのになあ。」  
「けいすけくん、そのニュースどうするの。」  
「ゆいさんがいいました。」  
「もう、かくのやめちゃうの。」  
「うん、かかないほうがよかつたかなあとおもって。」  
「わたしは、うれしかつたわ。ちゃんとしらべてかけば、みんなもきくとよろこぶとおもうわ。」  
「そうかなあ。」  
「ゆいさんとはなしながら、けいすけくんは、みんながおつたわけをかんがえました。そして、もういちどニュースをかくことにしました。けいすけくんは、もういちどニュースをかきました。」  
「みんなのことが、よくわかるね。」  
「みんなのニュースを、みんなうれしそうによんでいます。けいすけくんは、いきました。」



最初の発問では、②の観点から「みんなから文句を言われたけいすけくんは、どんな気持ちだったでしょう？」と問います。  
次に①・②の観点から、「ニュースを書き直しているとき、けいすけくんはどんな気持ちだったでしょう？」と問い、中心発問につなげたいと思います。

展開前段

展開後段

前段の発問ができましたね。後段では資料から離れ、ここで理解した道徳的価値に照らして自分自身を振り返らせることが大切です。P121の「指導例」では、「今までに友達のことを思って、言いにくいことでも伝えてあげたことはありますか。」と前段とのつながりを意識した発問になっています。何と問いますか？

けいすけくんの心情の変化にふれながら、「今までに、みんなのために働いたことはありますか、その時はどんな気持ちがありましたか？」と聞きたいと思います。

中心発問等を軸として一体となった発問構成ができました。道徳的価値の自覚が深められそうですね。



「利根沼田の教育」第14号では、道徳の時間の充実のための三つの視点(「ねらいの検討」「資料の吟味」「発問の工夫」)について掲載しています。利根教育事務所HPから御覧いただけますので参考にしてください。